

### 主な実施事業

1. 障害者スポーツ体験イベントの開催
  - (1) パラスポスクエア2025 in みんなのスポーツDAY(車いすバスケットボール・ボッチャ・フライングディスク)
  - (2) 障害者スポーツ体験(ブラインドラグビー・デフラグビー・ブラインドサッカー・ボッチャ・モルック)
  - (3) あすチャレ！運動会(ボッチャ・車いすポートボール・車いすリレー)
2. ボッチャの普及推進
  - (1) ボッチャ大会(府中市ボッチャ大会・スポレクボッチャ)
  - (2) ボッチャ教室・講座(教室1回、出前教室等4回)
  - (3) ボッチャ体験(ボールふれあいフェスタ、軽スポーツ大会、WaiWaiフェスティバル)

### 今年度の実績・良かった点

#### ●実績

1.(1)79人(2)延578人(3)43人 2.(1)290人(2)136人(3)1271人

#### ●良かった点

1(1)のイベントでは、パリ2024パラリンピックの代表選手に講師を務めていただいた。本格的なパラスポーツの機会を提供し、パラスポーツのトップ選手と身近に触れ合うことができる良い機会になった。講師を務めていただいたパラアスリートの方々とも繋がりを持つことができた。また(3)のイベントは、半数が当事者の参加であり、誰もが一緒に楽しめる障害者スポーツの魅力を伝えることができたと感じる。また、どのイベントも参加者の満足度が高く、体験を楽しむ様子が各所で見られた。

2のイベントでは、年2回の大会に向けて、ボッチャ教室や出前講座、また、各種イベントでボッチャ体験を行うことで、ボッチャの気運を高め、参加者の増加を図ることができた。

### 見えてきた課題

どのイベントも集客面に課題があり、参加したいと思っただけのようPRを工夫する必要を感じる。また、当事者の方々の参加に際し、事前に障害の程度についてヒアリングを行い、適切な補助や細かな運営上の配慮を行うことが重要だと感じた。運営面だけでなく、施設面についても、バリアフリーが整っている場所の選定し、動線を確認したりと当事者の方々が不安なく参加できるように事業を計画することが課題だと感じた。

2のイベントは、レクリエーションとして楽しむ参加者と、競技として取り組む参加者が混在し、意識の違いによってギャップが生じていることが課題となっている。

### 来年度につながる視点

幅広い層(一般参加者、障害当事者、チームFUCHUボランティア、コミスポ協力者等)に向けて積極的に参加を呼びかけることで、インクルーシブな体験の場を創出すること。当事者が多く参加するイベントでは、参加者情報の事前共有や会場内の導線を十分に行うこと。また、これらの準備を丁寧に進めることで、障害の有無にかかわらず誰もが安心してスポーツを楽しむことができる環境づくりを目指すこと。